

恵みと真理のニュース



2015 年 5 月の一次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net



【証】 恵みと真理教会に通い主に対する初恋を回復してくださり、熱心に礼拝し仕えるようになりました。すると主は恵みを与えてくださいました。

中学校3年生から高等学校3年生まで教会を通いました。が神様を信じない旦那を出会い若い時に結婚してから教会に行かなかったです。若い歳で子供を産んで子育てして家事もしてから礼拝に疎かになり不信者と同じようになりました。21歳に子供を産みました。私と子供と一緒に育ったしても過言ではありません。子供が大きくなって生活が安定すると熱心に教会に行こうと思って後回しました。学生ころ御言葉に根を下ろさなくて信仰を持ったなかったことと怠けた事が原因でした。

3番目の子供が一歳になる時から生活費を稼ぐため朝新聞配達を始めました。体が疲れて収入が多くなかったのですがその時間だけは子供と家事を忘れて仕事をすることが出来ました。そうするうちに一緒に働く区域長を知りその方から積極的に伝道され恵みと真理教会の聖徒になりました。

初めは私に親切してくださってその感動をうけて仕方なく教会に行きました。続けて行って礼拝に参加して過去経験しなかった御言葉と聖霊の恵みを受け神様の前で真の悔い改めの祈りをして主に対する愛を回復しました。礼拝と教会生活が楽しくなり聖歌隊で奉仕し始めました。熱心に奉仕しながら神様に賛美を捧げる喜びが溢れ賛美に恵まれた聖徒がアーメンと答えてくださると限りなくやりがいになりました。私を忘れないで全ての罪を赦してください暖かい愛の心で抱いてくださった神様の恵みに感謝捧げます。神様は高慢だった私の心を謙遜で溫柔な心で変えてくださいました。以前は何でも心に決めたら出来ると思った高慢な心でした。しかし、私がいくら熱心に努力しても自分の思い通りできることはなかったです。これから神様だけ信じて委ねて常に神様の導きと助けることを祈り

ました。熱心に祈り能力したとおりのなかで成し遂げる事を実際に体験するようになりました。

寒い冬朝に暖かくて穏やかな家で楽に寝ている人々がうらやましかったです。それで神様に“私にも暖かい家を与えてください。”と祈りました。どころが人間的に見るとき私の状況では成し遂げられないですが、数年後そんなに願っていた家を買えることが出来ました。神様の恵みでした。また、神様は朝休まずに仕事をする私の健康も守ってくださいました。5人の子供達も病院を行かなくて健康に育つように神様が限りなく愛を与えてくださいました。長女がバレエ勉強させましたが経済的に負担になりました。神様は助けてくださり苦難を乗り越えてくださいました。願ったいた芸術高等学校に入り熱心に努力して大学に進学して舞踊を専攻するように摂理してくださいました。才能を与えて下さり信仰も成長するようにしてくださったことに感謝します。それだけでなく他の4人の子供達にも私が祈ったとおりの神様は知恵とタレントを下さってやりがいになり誇りと成させてくださいました。神様は新しい事業場も開いてくださり私達の摂理してくださいました。主の事のため大きく用いられる事業場になり“過去のあなたは小さなものであったが／未来のあなたは非常に大きくなるであろう。”（ヨブ記8：7）という御言葉を信じて全能なる神様に祈りました。

私が信仰を回復して礼拝中心、教会中心の生活をしてから旦那とよくけんかしました。。信仰の生活問題で争そってお酒が好きで世のことが好きだった旦那の習慣によって苦しかったです。結局祈りしか他の方法がありませんでした。“神様、旦那を変えてください。私と家庭を愛するようにしてください。何よりも旦那を主の前に呼んでください。”教会で祈って家で争そう事が起きたら我慢して神様に祈りからしました。神様は私と子供達の祈りに答えてくださいました。旦那

が教会に行って礼拝に参加しました。まだ完全に主日礼拝を捧げないですが家で事が出来ると私達に祈りを頼んだり、教会のことで熱心になると怒ったりしますが旦那の心に蒔かれた信仰の種が徐々に育っていると確信します。ハレルヤ！

神様は私が信仰生活を疎かにしたり苦難に出会ったり否定的な考えが入るとその時に御言葉と良心を通して悟らせてくださり、祈ると第3者が見るように過去喜んだこと悲しんだ事を繰返していつも神様が私を守っている事を忘れないようにしてくださいました。またいつも肯定的な考えをして常に感謝するようにしてくださいます。そして、私に新しく教師の職分を与え尊い子供達に聖書の御言葉とイエス様の愛で教え守りながら喜びで検視するように恵みを与えてくださいました。

早く救われる信仰を持ったことがどれほど良いかまた、大きい祝福である事を知っているので責任感を持って奉仕しています。子供達にイエス様を教える時に子供達が心に確実な福音になるのをねがいながら教える者として恵みと聖霊に満たされるように祈ります。

証を書くため以前のことを振り返したら私が熱心に神様を信じ仕えた後から、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働いてくださり今まで祈っていた祈りが一つ一つ答えられることを深く悟りました。神様の助ける事なしには成し遂げる事はありません。主の助けによって今日の私と子供がいて家庭があることを神様に感謝と賛美を捧げます。これから主を仰ぎ愛し従順して忠誠することを決心します。

“主は常にあなたを導き／焼けつく地であなたの渇きをいやし／骨に力を与えてくださる。あなたは潤された園、水の涸れない泉となる。”（イザヤ58：11）



【信仰コラム】 私たちが祈りを捧げる理由

“神よ、シオンにて、あなたをほめたたえることは／ふさわしいことである。人はあなたに誓いを果たすであろう。”（詩篇65：2）

祈りを捧げない信者はありません。何をどれほどお祈りするかの違いはあれ、すべてのキリスト人は祈拝しながら暮らしています。祈りは信仰生活に非常に大きな比重を占めます。ですので、私たちは祈りの生活の発展のために努力して学ばなければなりません。聖書は祈りの教本としても過言ではないほど、祈拝に関して豊富な内容が記録されています。祈拝する理由について説明します。

第一に、私たちが祈りを捧げる理由は、神様との交通をためです。

祈りは神様と交際をする一つの形態です。神様は彼が作った存在の中で、人と交際を分けれることをお喜びです。そのために人を特別な存在として建てました。魂を持った存在として、神の姿や形どおり受けた存在である人と神様が交際することを望まれているのです。神様は人々にとって非常に多様な方法で、

持続的におっしゃっております。その建設した万物を通じて人生におっしゃいます。そして僕たちの良心を通じても申しております。また、過去の歴史を通じても申しております。

存在と存在、人格と人格の間の交際は対話を通じて健全で豊かになります。神様が一方的におっしゃっていた状態では人生との交通は行われません。おっしゃっている神様に向かって私たちが言ったことで、交際が行われます。したがって、神様は私たちに祈れとおっしゃいます。祈拝の根幹になる2人の要素は称賛と切せつに求もとめることです。神様は彼の子供らが祈拝しなくても、愛の手で必要なものを供給して助けてくれます。しかし、祈拝に対する回答で、神の供給することと助け抜きを体験する人たちが持つようになっている神様との親密な交際と感動と喜びを知りません。

第二に、私たちが祈りを捧げる理由は神様が私たちの祈りに答えてくれないからです。

祈りは神様の助け抜きを経験しうる卓越した手段であり、方法です。私たちが求めてはくれる神様だがまた、求めない場合、決してくれない場合もあることを

知らなければなりません。祈拝する者にくれる神様の回答は非常に多様です。

神様はお祈りする者に欠乏と貧窮を免れて満たすことにしてくれます。祈拝する者に知恵と名鉄をくれます。祈拝する者に平安をくれます。祈拝する者に喜びや慰めをくれます。祈拝する者の病気を治してくれます。祈る者を危機と苦境から救い出してくれます。祈拝する者に試験を勝つ力をくれます。祈拝する者に話して電波の能力を下さって伝道の扉を開けてくれます。祈拝する者に省令で充満させます。祈拝する者の様々な願いを聞いてくれます。神様が祈りする者に一番良い時、最も良い方法として、回答してくれます。

神様は私たち人生にお話されている方です。そして祈りを聞いて回答してくれることをお喜びです。このような事実の真の意味を悟ってこれを自分の体験の世界に作る人は知恵、恵まれた人です。皆さんはこのような明白な祈拝の理由を持ち、また、実際の体験の中に生きている聖徒になれますことを願います。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

私は信じます



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

“聖なる公同の教会、聖徒の交わり、罪のゆるし、身体のよみがえり、永遠(とこしえ)のいのちを信ず。アーメン。” これは使徒信條の最後の部分です。 この最後の部分を五つで区分して説明します。

第一、“聖なる公同の教会“に関してよく見ます。

聖なる公同の教会は英語で ‘Holy catholic church’ です。 ‘catholic’ は ‘普遍的、宇宙的’ という意味があります。 ‘聖なる公同の教会’ は教会が非常に広い領域で拡がることを意味します。 イエスキリストがおっしゃるのを “ただ、聖霊があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう。” (使徒行伝 1:8) しました。 この言葉はイエスキリストの教会が広範囲な時代と地域と人種を含むことを現わしています。 ‘教会’ という単語は新約聖書を記録したヘルラ語で ‘エクルレシア’ と言います。 ‘呼ばれを受けた人々の集まり’ を意味します。 神様を敬拝しながら仕えるように神様の呼ばれを受けた人々の集まりが教会です。教会という意味を持った英語 ‘church’ はヘルラ語 ‘クィリアコス’ から由来したのです。 ‘神様に属する’ という意味があります。 だから教会とは神様によって世の中で呼ばれを受けて主イエスキリストに属した人々の集まりを意味します。 もっと手短に定意すれば教会はクリスチャンの集まりです。 教会の意味をもう少し深く理解しようとするればイエスキリストと信者の関係が分からなければなりません。 イエスキリストと信者の関係は命に関わっています。 イエスキリストがおっしゃるのを “わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。” (ヨハネによる福音書, 15:5) と言いました。 枝はぶどう木に付いて木から命を供給受けています。 イエスキリストはあがないの死を死んで復活してイエスキリストを信じる人々が聖霊で生まれかわって新しい命を得るようにします。 教会を ‘聖なる公同の教会’ と呼ぶ理由があります。 信者の集まりは聖なった人々の集まりであるからです。 神様の呼ばれるようになるのです。 神様の呼ばれを受けてイエスキリストの中に入って来れば 聖なる公同の教会に属するようになるのです。

第二、“聖徒の交わり”に関してよく見ます。

聖徒の交わりと言うのは親密に付き合いを分けて協力しながら一緒に神様を仕えることを意味します。 聖徒がほかの聖徒を忌避して一人で信仰生活をすることは聖書の教えに違います。 その理由は聖徒に対する多くの名称によく現われています。 聖徒は ‘神様の家族’ です。 エペソ人への手紙, 2章 19節に “そこであなたがたは、もはや異国人でも宿り人でもなく、聖徒たちと同じ国籍の者であり、神の家族なのである。” と言いました。 聖徒は神様の子に成り立った大家族中の一人なので一人きり行動するのではなくお互いに交通しなければなりません。

聖徒は ‘神様の家’ です。 エペソ人への手紙 2章に “またあなたがたは、使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられたものであって、キリスト・イエスご自身が隅のかしら石である。このキリストにあって、建物全体が組み合わせられ、主にある聖なる宮に成長し、そしてあなたがたも、主において共に建てられて、霊なる神のすまいとなるのである。” (エペソ人への手紙 2:20~22) しました。 聖徒は ‘キリストの身’ です。 コリント人への第一の手紙 12章 27節に “あなたがたはキリストのからだであり、ひとりびとりはその肢体である。” と記録されました。 私たちはキリストの身であり肢体なので集まらなければならないし交通しなければなりません。 聖徒は集まって礼拝して親交を分けて奉事しなければなりません。 イエスキリストがおっしゃるのを “また、よく言うておく。もしあなたがたのうちのふたりが、どんな願い事についても地上で心を合わせるなら、天にいますわたしの父はそれをかなえて下さるであろう。 ふたりまたは三人が、わたしの名によって集まっている所には、わたしもその中にいるのである。” (マタイによる福音書 18:19, 20) と言いました。 聖徒が集まってお互いに交われば神様が私たちの中いらっしゃいます。 聖徒が集まって仕事を論議して決めれば天にいらっしゃる父がその仕事が成り立つようになさいます。 聖徒が集まって祈る時に神様が回答します。

第三、“罪のゆるしてくださること”に関してよく見ます。

私たちが罪のゆるしを信じる根拠はイエスキリストの成肉身と生涯と死と復活と天に昇りにあります。 知性と教養を兼備して慈善と救済に力をつくして歴史に記録されるに値する業績を残しても神様頃から罪のゆるしを受けることができないです。 神様がイエスキリストを信じる人は誰でも罪の赦しを受けさせました。 イエスキリストによる罪のゆるしの福音を信じるとか拒否するとかそれは各自の自由です。 しかしその選択の結果は天国と地獄の差を持って来ます。 私たちが罪を犯して不義してみにくくて滅亡を受けるようになる罪人にもかかわらずイエスキリストによるあがないの恵みを受け入れれば神様が私たちのすべての罪を赦し下さって神様の義を賜物でください。

第四、“身体のよみがえり”に関してよく見ます。

人々は肉体の老けることと死と腐敗を解決しようと思うが肉体の衰退と死と腐敗は阻むあてがないです。 神様が土から人を作って神様の見るのに良かったと言いました。 イエスキリストが人の身を着て世の中へいらっしゃいました。 聖霊が聖徒の身に臨在します。 死ねばくさる身だが私たちの身は軽蔑の対象ではないです。 私たちの身が死んでどんな状態であろうがイエスキリストが天から下りる時にまた生きようになります。 “身体のよみがえりを信じます。” という信仰告白は聖書に予言されて約束されたお言葉に根拠するのです。 イザヤ 26章 19節に記録されるのを “あなたの死者は生き、彼らのなきがらは起きる。ちりに伏す者よ、さめて喜びうたえ。あなたの露は光の露であって、それを亡霊の国の上に降らされるからである。” しました。 イエスキリストの復活は私たちが身の復活を信じる一番確かな根拠です。 私たちの身がどんな姿で復活しようか? という質問に対する答がコリント人への第一の手紙 15章にあります。 “死人の復活も、また同様である。

朽ちるものでまかれ、朽ちないものによみがえり、卑しいものでまかれ、栄光あるものによみがえり、弱いものでまかれ、強いものによみがえり、肉のからだでまかれ、霊のからだによみがえるのである。肉のからだがあるのだから、霊のからだもあるわけである。” (コリント人への第一の手紙 15:42~44)。 このような事がいつ起きますか? という質問に対する答はテサロニケ人への第一の手紙 4章にあります。 イエスが死んで復活されたからには、同様に神はイエスにあって眠っている人々をも、イエスと一緒に導き出して下さるであろう。わたしたちは主の言葉によって言うが、生きながらえて主の来臨の時まで残るわたしたちが、眠った人々より先になることは、決してないであろう。すなわち、主ご自身が天使のかしらの声と神のラッパの鳴り響くうちに、合図の声で、天から下ってこられる。その時、キリストにあって死んだ人々が、まず最初によみがえり、それから生き残っているわたしたちが、彼らと共に雲に包まれて引き上げられ、空中で主に会い、こうして、いつも主と共にいるであろう。 復活を信じる聖徒はどうやって暮さなければならないはずなのかに対する返事がコリント人への第一の手紙 15章 58節に明示されています。 “だから、愛する兄弟たちよ。堅く立って動かされず、いつも全力を注いで主のわざに励みなさい。主にあっては、あなたがたの労苦がむだになることはない、あなたがたは知っているからである。” .

五番目、“永遠(とこしえ)のいのちを信ず”に関してよく見ます。

聖徒が永遠に暮すことは神様がくださる最大の約束であり最上の贈り物です。 ヨハネによる福音書 3章 16節に “神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。” と言いました。 イエスキリストを信じるだけで永生を得ます。 イエスキリストを信じる人は新しい天と新しい地、新しいエルサレムで愛する神様とともに永遠に生きようになります。 イエスキリストを信じない人は希望に満ちる未来がない人です。 もしそんなに未来に対する希望を持っていると言ってもそのすべてのものは虚荒されたのです。 イエスキリストを信じる人にはこの世の中の何でも比べることができない燦爛たる未来が約束されています。 その約束は復活と天国と賞に対するなのです。

使徒信條は ‘アーメン’ で終わります。 これは ‘真実で、確実に、彼と一緒にしてください、そうです。’ という意味を持っています。 私たちは信仰の告白をする時 “私が信じてあり、私が信じるのです。” と言います。 信仰は自分の決断ではなければなりません。 使徒信條の内容が分かることだけでは十分ではないです。 信じなければならないし他人の前で言えなければなりません。 ローマ人への手紙, 10章 10節に “なぜなら、人は心に信じて義とされ、口で告白して救われるからである” と言いました。 イエスキリストがおっしゃるのを “だから人前でわたしを受け入れる者を、わたしもまた、天にいますわたしの父の前で受け入れるであろう。しかし、人前でわたしを拒む者を、わたしも天にいますわたしの父の前で拒むであろう。” (マタイによる福音書 10:32, 33) しました。 信仰の告白は有益な結果をもたらします。 信仰を告白すれば信仰が堅固になります。 信仰を告白すればサタンの誘いを阻みます。 信仰を告白すれば神様を喜ばれます。 皆さんは使徒信條を暗誦する時その意味を吟味する楽しさが心霊に充満するように願います。